

長寿医療研究開発費 2020年度 総括研究報告

当事者と家族介護者に対するストレスマネジメント手法の開発研究  
(20-16)

主任研究者 竹内 さやか 国立長寿医療研究センター 看護部 (看護師)

研究要旨

認知症施策大綱には、認知症の人 (以下、当事者) や家族介護者(以下、家族)が安心して生活を送れるような支援が明記された。大綱には当事者の家族の介護負担軽減の指針として、介護休業等制度の周知、認知症カフェの普及、診断後からの家族教室や家族同士のピア活動の推進が挙げられている。

しかし、COVID-19 の感染が拡大し、感染対策に伴う三密 (密閉、密集、密接) 回避に伴って、社会的つながりの維持が困難になっている。特に当事者や家族は、介護保険制度の通所系サービスの利用を控え、インフォーマルな集い(認知症カフェ、家族介護者の会、食事会等)の不開催により、外出機会が大幅に減少している。このような状態は当事者、家族ともに孤立・孤独を助長しQOL悪化が懸念される。そのため、当事者や家族が、安心、安全に社会的つながりを維持する方法が求められている。

本研究では、Society5.0の中核である「ICT」を用い、当事者や家族の孤立・孤独、それに伴うストレス、以上の社会的課題の軽減、予防手法、介入した結果を評価する尺度の開発を行う。

主任研究者

竹内 さやか 国立長寿医療研究センター 看護部 (看護師)

分担研究者

萩原 淳子 国立長寿医療研究センター 看護部 (副看護師長)

清家 理 京都大学こころの未来研究センター (講師)

## A. 研究目的

本研究では、ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究（研究①）と、研究①で実施する介入の効果を評価する尺度開発（研究②）をおこなう。以上の2研究により、当事者と家族に対する効果的なストレスマネジメント手法を明らかにする。

## B. 研究方法

### 研究① ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

当センター主催の茶話会の開催案内送付を希望した家族 137 名に自記式アンケート調査を実施した。研究対象者は当センター主催の家族教室に参加したことがあるもの、当センター主催の茶話会開催案内送付を希望したもの、在宅介護を継続しているもの、同意書にて家族および当事者から同意が得られたものとした。アンケートは 1)介護の現状、2)使用している通信機器、3)介護相談における ICT の利用の現状と課題、4)当センターでテレビ電話を用いた介護相談や家族交流会を実施する場合の意向の 4 項目について調査した。そして、電子カルテから当事者の情報 1)年齢 2)性別 3)認知症の診断名を情報収集した。

### 研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

本研究は、前向き量的観察研究である。国立長寿医療研究センターに通院中の当事者の家族介護者でかつ在宅介護を実施中の 20 歳以上の当事者の家族を研究対象とした。主要評価項目は、認知症介護コンディション評価スケール（以下、新尺度）の信頼性である。

統計解析方法だが、外的妥当性の評価は、新尺度の内的妥当性の評価（以下、先行研究）にて解析した内容について、本研究集団にて再度同様の解析（一貫性[クロンバックの  $\alpha$ ]、外的基準[DBD scale 等]との基準連関妥当性）を実施し、先行研究と同程度の結果が得られるかを検討することとした。また、再現性（安定性）の評価は、再テスト法にて評価を行うこととした。

#### （倫理面への配慮）

本研究は、利益相反・倫理委員会へ申請し、承認を受けて実施した。また、調査で取得したデータには個人情報が含まれるため、連結可能な匿名化状態でデータベース化した。また、匿名化データはデータファイルをパスワード管理したうえで、外部記憶装置に保存し、主任研究者および分担研究者が、鍵のかかる保管庫にて一括管理した。なお、利益相反・倫理委員会へ申請し、承認を受けて実施した。

### 研究① ICTを用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

アンケート調査は、研究説明文書と同意書を同封し、同意を文書で得た。

研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究  
本研究は、「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省，平成 20 年 7 月 31 日全部改正）、  
「疫学研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省，平成 20 年 12 月 1 日一部改  
正）に則り、研究を実施した。また、研究対象者に対し、別に定める同意説明文書に基づ  
いて、研究主旨と方法の説明を実施した。そして、参加者が内容をよく理解したことを確  
認の上で、本調査への参加について、自由意思による同意を文書で得た

### C. 研究結果

#### 研究① ICT を用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

アンケート 137 名に配布し、有効回答数は 50 名(36%)であった。

通信機器(スマートフォン・パソコン・タブレット端末・携帯電話)の利用の有無は、ス  
martフォンが 70%と高い保有率であった。専門職に介護相談をする際の手段としては、  
「直接会って」が 80%、「電話」が 56%、「メール」が 30%、「SNS」が 10%、「テレビ  
電話」が 0%であった。ICT を用いた介護相談を利用する際、「使い方が分からない」、「相  
談サイトや機能を知らない」「使い方を教えてくれる人がいない」など ICT の使用や通信  
手段についての不安や、「機器が作動しないときに対処できない」「個人情報流出が不安」  
などセキュリティやトラブルについての不安が多かった。また「自分の話を伝えにく  
い」が 38%、「交流は直接会ってすべきだ」38%と画面越しに会話することに抵抗感を示  
す回答もあった。

ICT を用いた介護相談を利用する際に期待することは、「感染を心配しなくていい」  
70.4%、「移動しなくていい」63%、「自分の都合のいいときに利用できる」51.9%と衛生面  
への安心感や、利便性について回答が多かった。

#### 研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

初回調査および 2 週間後の再調査に参加した者 110 名のうち、データ欠損がない者 104 名  
(94.5%) を分析対象とした。まず、新尺度合計スコアと既存尺度の相関分析による妥当  
性評価を実施した結果、外的妥当性、再現性評価ともに、CES-D、介護評価（否定的）、  
J-ZBI で相関（いずれも  $r = 0.45$  以上）が確認された。クロンバック  $\alpha$  による内的整合性  
評価では、外的妥当性：0.861、再現性評価：0.887 であった。また再テスト法による再現  
性評価（級内相関係数）では、0.866 であった。級内相関係数は 0.7 が目安であるため、  
本研究では強い相関が確認された。

## D. 考察と結論

### 研究① ICT を用いた認知症家族介護者支援の効果検証研究

以上により、家族はスマートフォンやパソコンの保有率は高いが、SNS やテレビ電話、メールでの介護相談の利用に至ってない現状が分かった。そして、SNS やテレビ電話、メールでの介護相談の希望も少なかった。その要因としては、機器の操作やセキュリティへの不安が高いことが課題であるとわかった。それに加え「介護相談は直接とるべきだ」と意見があることから、SNS やテレビ電話、メールへの抵抗感は強いと考えられる。

そのため、SNS やテレビ電話、メールでの介護相談を進めていくには、操作やセキュリティサポートをする必要があること、抵抗感を軽減できる関わりが必要であると考え。次段階として、操作やセキュリティについてサポートにし ICT の集団支援を行うことで、ICT への抵抗感が軽減し、遠隔での介護者向け集団支援の実現可能性を検証する。

### 研究② 認知症家族介護者のストレスコーピングサポートのための手法開発研究

以上の結果より、44 項目で構成される新尺度の外的妥当性、再現性が確認された。そのため、次段階として、短縮版の内的妥当性を検証する。まず、本研究の外的妥当性検証時（初回データ）を使用し、Kaiser の正規性を伴うプロマックス回転法を用いた因子分析を実施する。因子分析の結果を踏まえて短縮版を試作化し、短縮版の外的尺度との相関、クロンバック  $\alpha$  の内的一貫性の確認を実施する。その後、本研究と同様の手法を用いて、短縮版の外的妥当性検証を実施する。

## E. 健康危険情報

なし

## F. 研究発表

### 1. 論文発表（主任研究者）

- 1) 竹内さやか (分担執筆). Colum①認知症療養に対する家族の希望と不安. 櫻井 孝. 他編集. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. 南江堂
- 2) Aya Seike. Sayaka Takeuchi. Teamwork skills. In Srikanta Patnaik (Eds. ) Self-management. Shingapore: Partridge Publishing house. (November, 2020)

### 1. 論文発表（分担研究者）

1. 清家 理. 聯結的可能性 -毎個人が正照看著他人-. In 郭子菱, 宮木由貴子, 的場康子, 稻垣圓 (Eds.) 設計你的幸福人生: 從家庭到消費, 看準社會五大趨勢, 畫出你的未來藍圖. 寶鼎. p157- p160, 2020

2. 家族支援ガイドライン作成委員会.(清家 理：分担執筆) 当事者と家族を支えるガイドブック. ワールドプランニング社. p46-p47, p78-p79, p86-p87, p130-p131, p152-p156. 2021.
3. 清家 理. 地域で支える取り組み・連携 - 治し・支える医療にむけて -. 生活習慣病と健康長寿・フレイル対策. 先端医学社, p125-p131, 2021
4. 竹内さやか, 清家 理. 第II章 E ご家族のケア. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. p137-p139. 南江堂 .2021
5. 清家 理. 第III章 C-2 相談を通じた治療・ケアへの参画. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. p171-p173. 南江堂 .2021
6. 清家 理. 第III章 C-3 家族介護者の学びあいを通じた治療・ケアへの参画：家族教室. 認知症サポート医・認知症初期集中支援チームのための認知症診療実践テキスト. P174-p177. 南江堂 .2021
7. Aya Seike, S. Takeuchi. Team work skills. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge, 25-37, 2021.
8. Aya Seike. Self-awareness. Self-management: For Individual and Organizational Success. Partridge, 89-100, 2021.
9. A. Seike, C. Sumigaki, S. Takeuchi, J. Hagihara, N. Mizuno, C. Becker, K. Toba and T. Sakurai. Effectiveness of Group-based Education for Informal Caregivers of People with Dementia in Japan: a randomized controlled study. Geriatric and Gerontology International. 2021. (In Press)

2. 学会発表（主任研究者）

なし

2. 学会発表（分担研究者）

1. 清家 理. 「コロナ禍における当事者を支える社会システムのあり方」. 第 5 回 Care  
TEX 大阪 2020 専門セミナー講演. 2020.

2. 清家 理. 「家族・介護者のケア」. 老人保健施設協会 2020 年度老人管理医師総合診  
療研修会. WEB 開催. 2021.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

認知症介護コンディション評価スケール

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし